

Market Watching

発表日: 2019 年 2 月 18 日(月)

潮目を変えた 1 月 FOMC の議事録の内容は？(マーケットウィークリー) ～FRB の狼狽えぶりが確認できるのか～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
取締役・首席エコノミスト 嶋峰 義清 (TEL: 03-5221-4521)

【先週の市場動向】

先週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	結果	コンセンサス	前回	備考
2月11日(月)	—				
2月12日(火)	—				
2月13日(水)	日本：企業物価指数（1月） NZ：金融政策委員会 スウェーデン：金融政策委員会 英国：消費者物価指数（1月） ユーロ：鉱工業生産（12月） 米国：消費者物価指数（1月）・総合 ・コア	▲0.6% 1.75% ▲0.25% +1.8% ▲0.9% +1.6% +2.2%	▲0.2% 1.75% ▲0.25% +2.0% ▲0.4% +1.5% +2.1%	▲0.6% 1.75% ▲0.25% +2.1% ▲1.7% +1.9% +2.2%	前月比 オフィシャルキャッシュレート レボ金利 前年比 前月比 前年比 前年比
2月14日(木)	日本：実質GDP（10-12月速報値） 中国：貿易統計（1月）・輸出 ・輸入 ドイツ：実質GDP（10-12月速報値） ユーロ：実質GDP（10-12月改定値） 米国：小売売上高（1月）・全体 ・除自動車 米国：生産者物価指数（1月）・最終需要 ・最終需要（コア）	+1.4% +9.1% ▲1.5% 0.0% +0.2% ▲1.2% ▲1.8% +2.0% +2.6%	+1.4% ▲2.7% ▲11.0% +0.1% +0.2% +0.1% 0.0% +2.3% +2.5%	▲2.5% ▲4.4% ▲7.6% ▲0.2% +0.2% +0.2% +0.2% +2.5% +2.7%	前期比年率 前年比 前年比 前期比 前期比 前月比 前月比 前年比 前年比
2月15日(金)	中国：消費者物価指数（1月） 米国：NY連銀製造業景気指数（2月） 米国：鉱工業生産指数（1月） 米国：シカゴ大学消費者信頼感指数（2月速報値）	+1.7% +8.8 ▲0.6% 95.5	— +7.0 +0.2% 93.0	+1.9% +4.0 +0.4% 91.2	前年比 前月比
2月16日(土)	—				
2月17日(日)	—				



主要市場の動向

	直近値	変化			移動平均値		
		1週前比	1月前比	1年前比	25日	75日	200日
10年債利回り							
米国	2.663	+2.9	▲2.1	+33.0	2.537	2.659	2.659
日本	-0.025	+0.5	▲3.5	▲8.5	-0.008	0.034	0.065
ドイツ	0.101	+1.4	▲10.5	▲66.3	0.178	0.258	0.355
豪州	2.100	▲0.4	▲18.7	▲82.1	2.217	2.408	2.570
株価							
NYダウ	25883.25	+3.1	+7.6	+2.7	24883	24499	25033
日経平均	20900.63	+2.8	+1.7	▲2.6	20688	21025	22033
ユーロSTOXX50	3241.25	+3.4	+5.6	▲4.4	3148	3116	3295
上海総合	2682.39	+2.5	+4.4	▲16.2	2612	2593	2736
為替相場							
ドル/円	110.46	+0.7	+1.6	+4.1	109.64	111.23	111.30
ユーロ/円	124.63	+0.3	+0.5	▲6.1	124.73	126.57	128.31
豪ドル/円	78.89	+1.5	+0.8	▲6.5	78.49	79.85	80.94
ユーロ/ドル	1.1294	▲0.3	▲1.0	▲9.7	1.138	1.138	1.153
商品市況							
WTI	55.59	+5.4	+6.7	▲9.4	53.29	52.19	62.90
金	1318.1	+0.3	+2.3	▲2.5	1302	1265	1246

(注) 10年債利回りの変化は金利差 (bp)。その他は変化率 (%)

為替相場の変化は、ドル/円、ユーロ/円、豪ドル/円は+が円安、▲が円高。

ユーロ/ドルは+がユーロ高、▲がユーロ安。

先週 (2/4~2/8) の金融市場は、米与野党が国境警備予算案で合意し、再び政府機関が閉鎖される事態が避けられたことや、米中通商交渉では3/2からの関税引き上げのリスクが後退した可能性が高まったことなどを材料に、リスク回避の動きが一段と弱まり、株高、債券安の流れとなった。米小売売上高が市場予想に反し大幅減となったことで株価が下げる場面も見られたが、実状を反映していないのではないかという見方から、一時的なものにとどまった。

今週のマーケットは、注目度の高い経済指標の発表は少ないなか、米中通商交渉の進展度合いや内容を推し量りながら、景気への影響を見極める格好となる。同問題が悪化する懸念が後退したことが、先週はリスク許容度の回復に繋がった。しかし、関税が引き下げられるような事態とならない限り、状況は改善しないため、これによる株価の押し上げ効果は限定的なものにとどまる。20日 (水) には1月のFOMC議事録が発表される。利上げ打ち止め、流動性縮小停止を示唆し、市場の潮目を変えたFOMCだっただけに、その内容は興味深いところ。利下げに繋がるような話もあれば、新たな材料となり得る。全体的には方向感に欠ける中で、一進一退の推移が見込まれる。

【今週のマーケット環境】

今週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	注目度	コンセンサス	前回	備考
2月18日(月)	日本：機械受注統計（12月）・船電除く民需	★	+3.4%	+0.8%	前年比
2月19日(火)	—				
2月20日(水)	日本：貿易統計（1月）・輸出 ・輸入 ・貿易収支	★★	▲5.7% ▲3.2% ▲10,295	▲3.9% +1.9% ▲5,530	前年比 前年比 億円
2月21日(木)	インドネシア：金融政策決定会合 ユーロ：PMI製造業景気指数（2月） 米国：製造業受注（12月）・耐久財 ・非国防資本財（除航空機） 米国：中古住宅販売件数（1月）	★ ★★★★ ★ ★ ★	6.00% 50.3 +1.7% +0.1% 500	6.00% 50.5 +0.7% ▲0.6% 499	7日物リバースレボ金利 前月比 前月比 万件
2月22日(金)	日本：全国消費者物価指数（1月）・総合 ・除生鮮食品 ドイツ：ifo景気動向指数（2月）	★★ ★	+0.2% +0.8% 98.9	+0.3% +0.7% 99.1	前年比 前年比
2月23日(土)	—				
2月24日(日)	—				

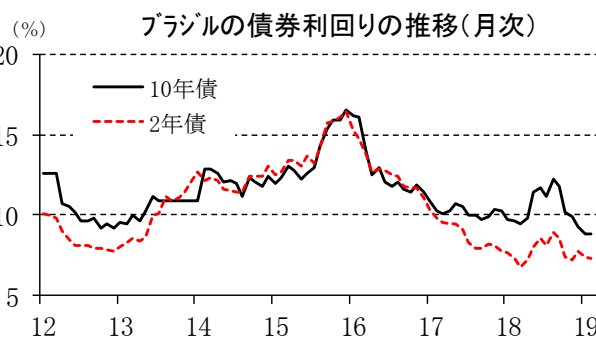
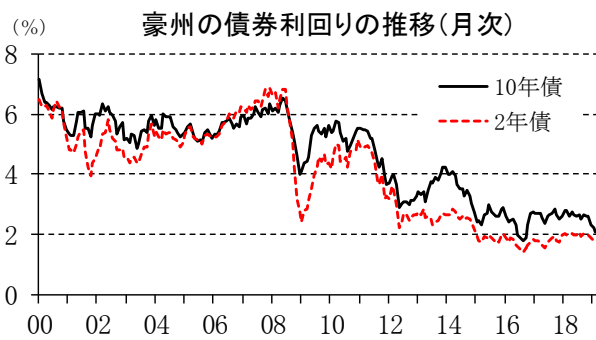
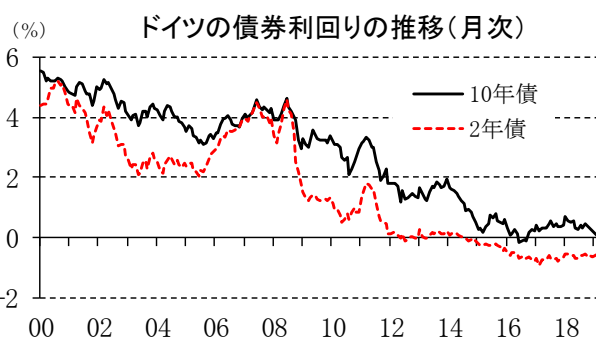
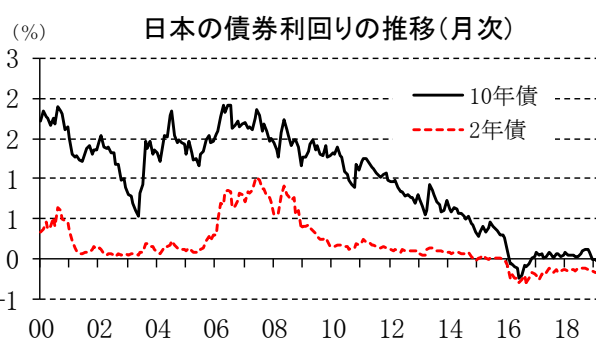
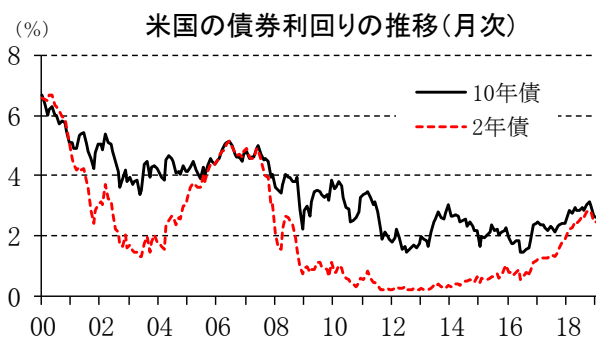
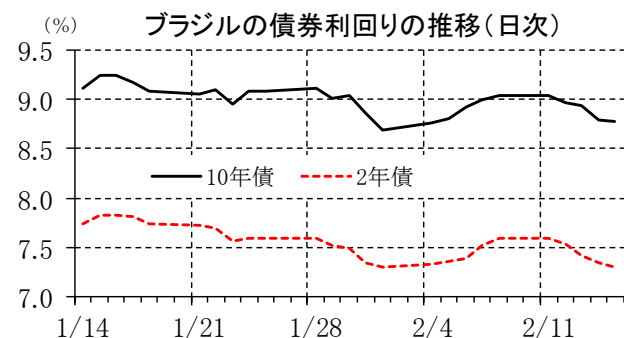
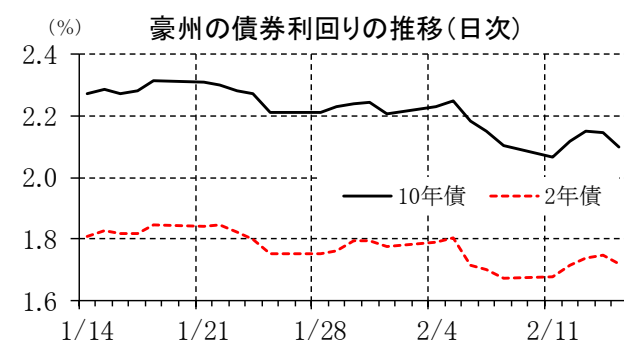
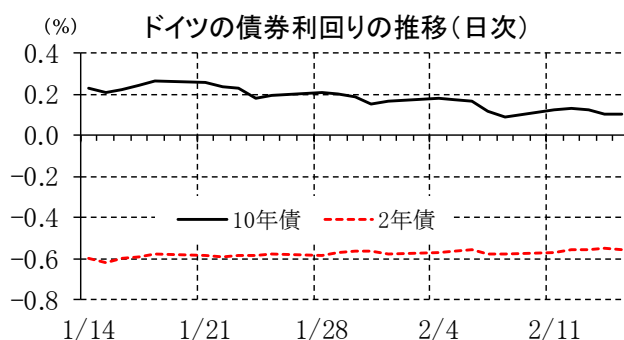
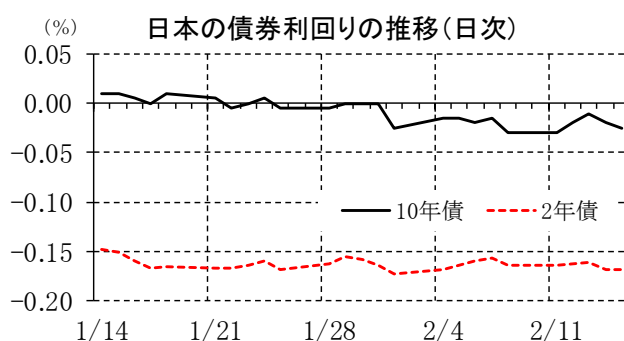
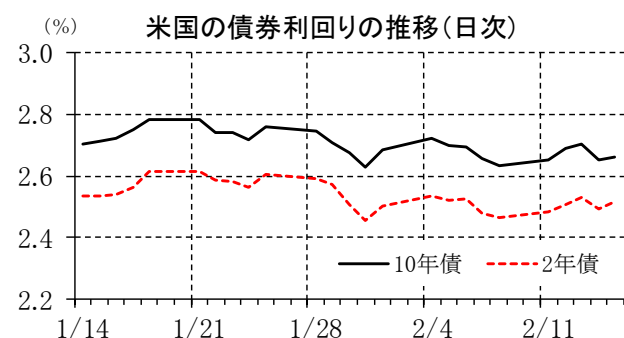
(注) 市場コンセンサスは各種ベンダー調査に基づく。注目度は筆者。

その他の注目イベント・材料

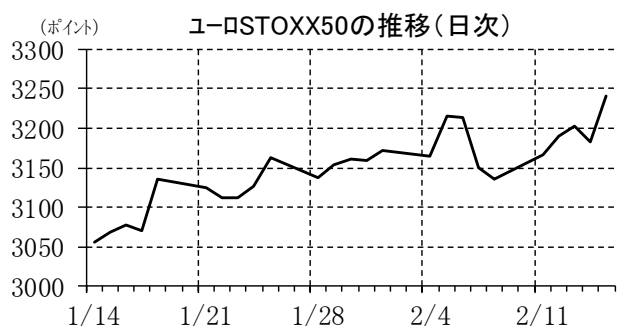
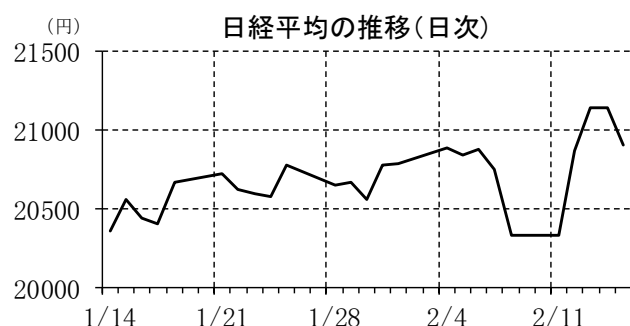
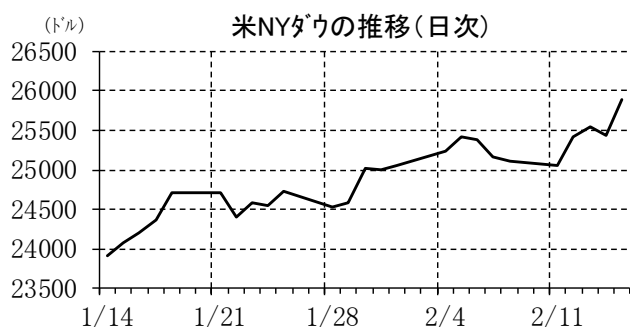
発表日	イベント	注目度	備考
2月18日(月)	米国：祝日（休場）		
2月19日(火)	—		
2月20日(水)	米国：FOMC議事要旨（1月分）	★★★★	
2月21日(木)	—		
2月22日(金)	米国：NY連銀総裁講演 ユーロ：ドラギ ECB総裁講演	★★ ★★★★	
2月23日(土)	—		
2月24日(日)	—		

(注) 各種報道等による。注目度は筆者。

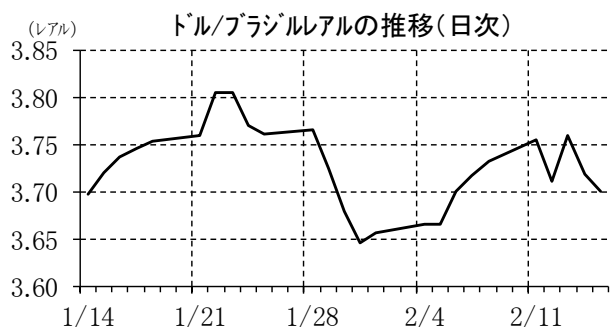
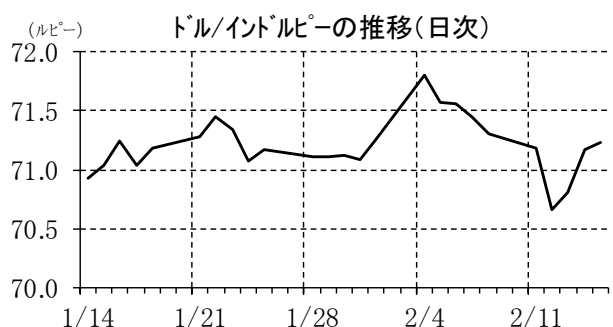
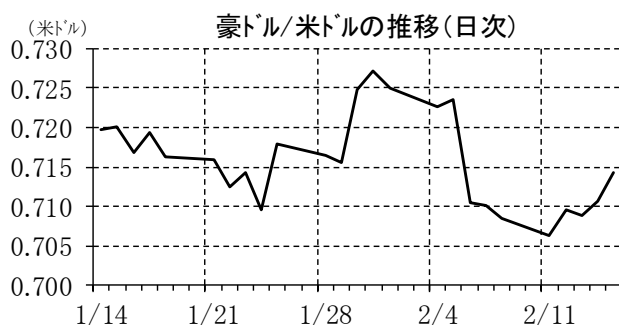
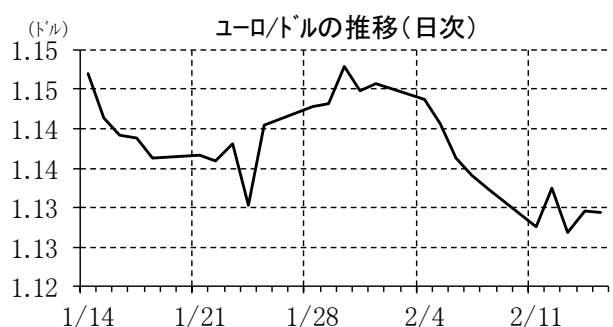
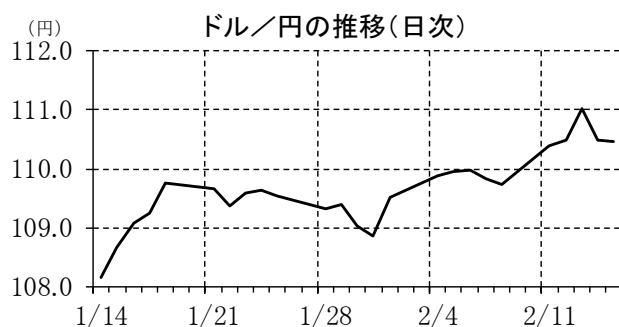
【債券利回り】



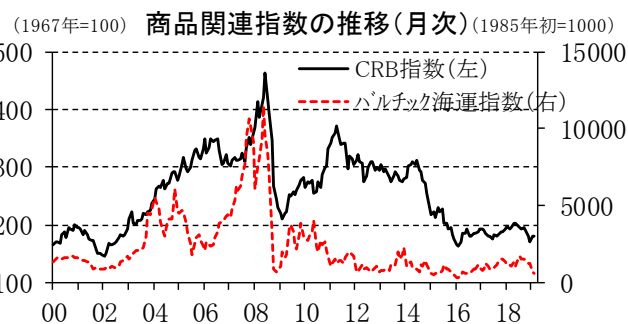
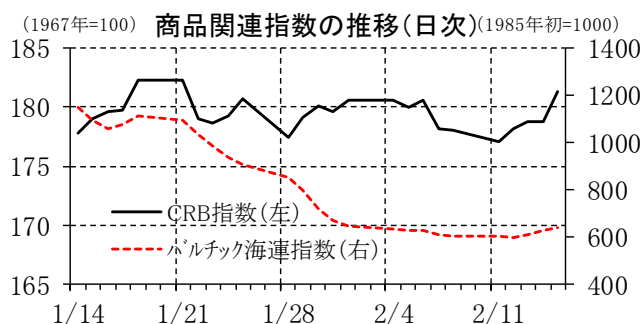
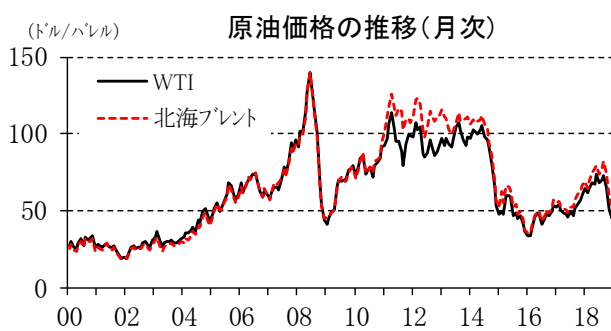
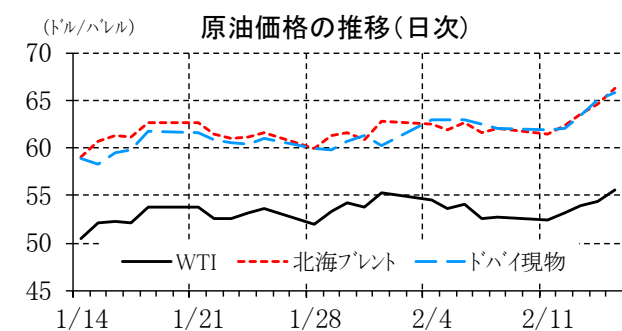
【株価指数】



【為替相場】



【商品市況】



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

